

CASBEE-建築(新築)2016年版
境港市民交流センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境					0.40		-		3.6
1 音環境				3.8	0.15				3.8
1.1 室内騒音レベル	室内騒音レベルは40dB以下となるよう計画している。			5.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.97				
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能はDr45以上、必要箇所はより高い遮音性能で計画。			5.0	0.03				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-				
1.3 吸音				3.0	0.20				
2 温熱環境				3.1	0.35				3.1
2.1 室温制御				3.3	0.50				
1 室温				3.0	0.38				
2 外皮性能				3.0	0.25				
3 ゾーン別制御性	各用途で制御できるようにしている。			4.0	0.38				
2.2 湿度制御				3.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30				
3 光・視環境				3.3	0.25				3.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30				
1 昼光率	十分に大きな開口部により、高い昼光率を確保。			5.0	0.60				
2 方位別開口					-				
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				3.0	0.02				
1 昼光制御				3.0	1.00				
3.3 照度				3.0	0.20				
3.4 照明制御				3.0	0.48				
4 空気質環境				4.6	0.25				4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.50				
1 化学汚染物質	安全性が高く、また規制対象外となる材料を全面的に採用。			5.0	1.00				
4.2 換気				3.6	0.30				
1 換気量	換気量は30m ³ /人・hとしている。			4.0	0.33				
2 自然換気性能				3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	給気と排気は十分離してガラリを設置している。			4.0	0.33				
4.3 運用管理				5.0	0.20				
1 CO ₂ の監視	CO ₂ センサーを設置し、取入外気量の制御をしている。			5.0	0.50				
2 喫煙の制御	建物全体の禁煙が確認されている。			5.0	0.50				
Q2 サービス性能				-	0.30				4.0
1 機能性				4.0	0.40				4.0
1.1 機能性・使いやすさ				2.9	0.40				
1 広さ・収納性				3.0	0.02				
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.02				
3 バリアフリー計画				3.0	0.95				
1.2 心理性・快適性				4.9	0.30				
1 広さ感・景観	天井高2.7mを確保し、室外の様子が見える窓を設置している。			4.0	0.02				
2 リフレッシュスペース	リフレッシュできるスペースのある自販機コーナーを2か所設置。			5.0	0.02				
3 内装計画	照明の専門家を交え、バース等を利用し内装・照明検討を行った。			5.0	0.95				
1.3 維持管理				4.5	0.30				
1 維持管理に配慮した設計	維持管理しやすく耐久性の高い内外装を計画。			5.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保	清掃に配慮したスペース・設備設計を行っている。			4.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				3.9	0.30				3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				4.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法の1.25倍以上の耐震性を有する設計。			4.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能	内部設備の保護のため防振機能のある設備計画を行っている。			4.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐久性の高い仕上により外壁の補修間隔は21年以上を想定。			4.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐久性の高い仕上により内装の更新間隔は20年以上を想定。			5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				4.8	0.20				
1 空調・換気設備	非常用発電により災害時も稼働できるようにしている。			5.0	0.20				
2 給排水・衛生設備	井水の他にも受水槽で水の確保が可能にしている。			5.0	0.20				
3 電気設備	非常用発電、無停電電源設備を備え、かつ地下空間を避けた計画。			4.0	0.20				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスSで計画をしている。			5.0	0.20				
5 通信・情報設備	災害時も情報が得られるよう、各種設備を地下空間を避けて計画。			5.0	0.20				

3 対応性・更新性			4.0	0.30		-	4.0
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高は1階は5.2m、2階は4.5mを確保。	5.0	0.04		-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.96		-	
3.2 荷重のゆとり		様々な使われ方を想定し、ゆとりのある荷重を設定している。	5.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			4.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性	更新スペースを確保し、仕上げを傷めず更新ができる計画。	4.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性	更新スペースを確保し、構造部材を傷めず更新ができる計画。	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性	構造部材および仕上げを傷めずに更新できる計画。	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性	仕上げを傷めずに配線の更新ができるよう計画。	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性	更新スペースを確保している。	4.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	3.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		塔状彫刻を保存し街の歴史に配慮。道路から十分引きをとる配置。	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		下記	4.0	0.30		-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		前施設の彫刻を内装に再利用し地域文化に貢献。雨を遮る大庇。	5.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40		-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.78	4.0	0.19		-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.98	2.1	0.50		-	2.1
4 効率的運用			3.5	0.20		-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00		-	
4.1	モニタリング	エネルギー消費全体の半分以上の用途構成の把握が可能。	4.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.4
1 水資源保護			3.5	0.20		-	3.5
1.1 節水		節水コマ、擬音装置、節水型便器を使用。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	井水利用を計画している。	4.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60		-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		特定調達品目(ビニル床シート)	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄+仕上、ウレタン吹付、OAフロア、可動間仕切りを使用。	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20		-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70		-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用。	4.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ の排出量が、一般的な建物に対して86%となっている。	3.0	0.33		-	3.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を全く発生しない計画。	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	管理用を含め、適切な量の駐車スペースを確保している。	5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの過半を満たし、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	